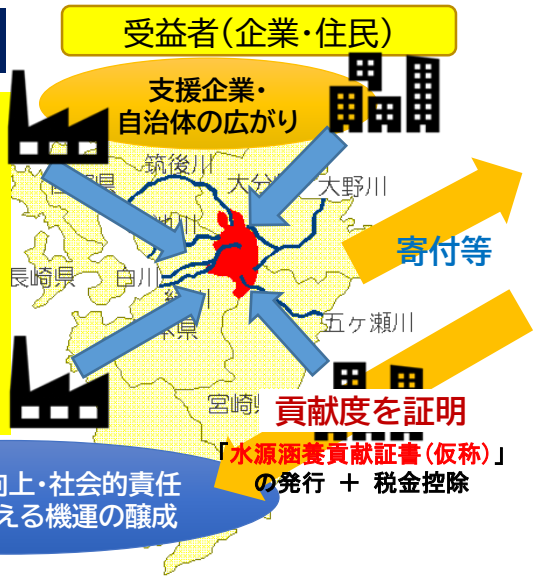
（5）阿蘇地域における地下水涵養の推進（環境立県推進課）

・阿蘇は九州の水がめと呼ばれ、白川を通じて熊本地域の水循環の一端を担うなど、6つの一級河川の源流として流域の生活と産業を支えている。阿蘇地域の草原等が水源涵養に果たす役割に着目し、企業や自治体、住民等の流域の受益者が阿蘇の草原等を維持する活動を支援するため仕組みを構築する。

・令和8年度からの本格運用を目指し、令和7年度上半期中を目標に阿蘇の草原を先行して支援の受付を開始できるよう、関係機関と調整中。

新たな枠組み

【支援企業・自治体・個人】（想定）
○阿蘇が源流の流域にある企業（熊本県内外、九州の企業）
○SDGs登録事業者等
○白川の恩恵を受ける自治体
○阿蘇を応援したい個人など



新基金（調整中）

寄付窓口

※調整中

使途及び配分決定主体

阿蘇草原再生協議会
阿蘇地域市町村等
熊本県

貢献度評価主体

学識経験者
関係市町村
国機関
熊本県

草原再生の取組等の活動支援に充当

阿蘇の地下水を支える活動

【草原】毎年の野焼き、防火帯づくり　など
※水田及び森林については、令和７年度中に水源涵養効果の評価や支援対象となる活動等の整理を行い、令和８年度からの支援開始を目指す。

1万円あたり
1,400～1,600m2の草原を保全
⇒3,500～4,000m3の
水源涵養効果と想定【暫定値】

※熊本大学研究成果（湿潤温帯地域における植生が地下水資源に及ぼす影響の定量的評価）、阿蘇草原再生・世界遺産推進課の令和６年度調査業務委託の中間報告（暫定値）を基に算定

※この暫定値については、あくまで一つの研究成果を基に計算したものであるため、検討の中で上記暫定値の範囲外の値に変更される可能性もあり得る。

スケジュール（案）

※令和7年度実施予定の取組については、令和7年2月議会に関連予算を提案。

令和6年度	令和7年度	令和8年度
寄付受入体制の整備 ・受け入れ体制整備に向けた事業変更申請等の準備	**草原再生への支援受付の先行開始を目指す** ・暫定的な評価軸を活用し、草原再生の取組への支援を先行実施 寄付等の支援受付開始（8月目途）	**制度の本格運用（草原・水田・森林）** ・支援対象に水田及び森林も加えるとともに、より信頼度の高い指標で貢献度を証明（本格運用）
評価・配分決定の仕組みの整理 ・阿蘇の草原の付加価値に関する各種研究を整理 ・暫定的な評価軸の整理 ・評価軸をブラッシュアップするための検討会立ち上げ準備 ・集めた寄付等の配分決定や使途の検討を行う組織の検討	**貢献度のエビデンス強化等のための検討会** ・有識者等による検討会を行い、暫定的な評価軸を、より信頼度を高めブラッシュアップ ・支援対象を水田、森林へ広げるための課題整理	
	シミュレーションモデルを活用した評価 ・シミュレーションモデル（GETFLOWS）を活用し、阿蘇の水循環が各河川に与える効果を可視化	